

元地質調査所次長・地質調査総合センター代表の加藤碩一氏が瑞宝中綬章を受章

佃 栄吉（産総研名誉リサーチャー）

産業技術総合研究所名誉リサーチャー加藤碩一氏が令和4年秋に瑞宝中綬章を受章された。この機会にこれまでの加藤氏のご経歴などを紹介し、ご本人とご家族、並びに地質調査総合センター一同及び加藤氏と関係の深い皆様とともに受章の栄誉を心よりお祝いしたいと思います。

加藤氏は昭和50年4月に工業技術院地質調査所に入所後、環境地質部地震地質課及び地質部層序構造課において活断層、地質構造の研究に従事され、地質部層序構造課長、国際協力室国際地質課長、地質調査所首席研究官、地質調査所企画室長、地質調査所環境地質部長を歴任され、国際協力事業の推進、研究所の管理運営とともに、地質調査所の基幹業務である地質図の出版事業を精力的に牽引されました。平成11年3月には地質調査所次長に昇任され、地質調査所の組織体制、人事など円滑な組織運営に貢献されました。

平成13年4月独立行政法人産業技術総合研究所（以下産総研）の発足に際しては地球科学情報研究部門長に就任され、その後、平成15年4月には産総研東北センター長、平成18年4月には産総研理事を歴任され、全国各地の地域センターの管理運営及び研究所全体の研究環境整備に尽力されました。平成20年4月からは産総研フェローとして地質調査総合センター代表を務められ、地質分野を代表して国際貢献などをリードされました。平成21年3月に産総研を退職されましたが、名誉リサーチャーとして、また、応用地質株式会社の顧問として、その後も活発な著作活動等を通して地質調査にかかる普及活動に尽力されました。

北部フォッサマグナの第三紀・第四紀地質の研究、災害地質学等の分野で多くの研究業績を残されました。とくに、地質調査所の基幹業務である地質図類等の作成出版事業に多大な貢献をされ、とくに加藤氏の主要フィールドである長野県、新潟県地域の5万分の1地質図幅「坂城地域」、「粟島地域」、「長野地域」、「大町地域」は単独または筆頭で完成された力作であり学術的にも高く評価され、また、褶曲構造が良く示されている「信濃池田地域」は、高校の地学副読本に長く掲載されるなど社会で広く活用されています。これらを含め、著者として関係された地質図類の出版数は28にも及び、管理業務と並行して研究成果の公表をされたことは誠に驚嘆に値します。なお、地質調査総合センターが編集協力し、令和4年に出版された『日本列島



写真 加藤碩一氏近影

地質総覧（地史・地質環境・資源・災害）』は、氏が筆頭編集者として刊行されたものです。

昭和58年度から60年度にわたり、トルコ・アナトリア断層地域の地震及び活断層・地殻変動の研究をリードされ、過酷なトルコ東部の調査研究にも従事されました。カウンターパートであるトルコ鉱物資源調査開発総局（MTA）にも厚く信頼されました。東・東南アジア地球科学計画調整委員会（CCOP）には平成10年から平成24年にわたって参加され、プロジェクトの推進や共同研究の調整など多国間国際協力に貢献されました。「Eastern Asia Geological Hazards Map」（2003）が関係者の協力のもとに出版され、自然災害学会から“International Award of Hazards 2000”を授与されました。

日本地質学会では学会誌の編集委員など学会の各種委員会の委員として運営に貢献され、学会誌の編集委員長も務められました。平成14年から16年にかけては副会長を務められるなど日本地質学会の活動に大きく貢献されました。日本地質学会が編集した『日本地方地質誌〈全8巻〉』は加藤氏が刊行委員長として多大なる指導力・調整力を発揮して出版されたものです。

国土交通省、文部科学省、経済産業省など国や地方自治体の専門委員などを多数務められ行政へ貢献されました。また、その幅広い研究実績を生かして、海洋研究開発機構や防災科学技術研究所、(財)資源・環境観測解析センターなどの運営に外部委員として貢献もされました。日本列島地質事百選選定委員会委員、日本ジオパーク委員会委員などで責任ある役割を担われました。また、筑波大学及び茨



城大学の非常勤講師を10数年間勤められました。

宮沢賢治に関する地質学的観点からの研究は在職期間中から始められた加藤氏のライフワークであり、関連する著作・講演は数多く、関係者から高く評価されています。令和元年より刊行されている「宮沢賢治個人研究誌『地と人』」は現在、第七号を数えています。平成19年には岩手県花巻市から、第17回宮沢賢治賞奨励賞を授与されています。

加藤氏のウィットにとんだ弁舌さわやかな講演と広範な知識に基づく著作活動は今後もぜひ継続していただきたいと思います。益々のご健勝とご活躍をお祈りします。末尾に主な著書をご紹介します。

主な普及著書

加藤碩一（1989）『地震と活断層の科学』朝倉書店。

垣見俊弘・加藤碩一（1994）『地質構造の解析—理論と実際—』愛智出版。

加藤碩一・香村一夫（1996）『地震と活断層を学ぶ』愛智出版。

加藤碩一・脇田浩二総編集・著（2001）『地質学ハンドブック』朝倉書店。

加藤碩一（2004）『アナトリア地震紀行』愛智出版。

加藤碩一（2006）『宮澤賢治の地的世界』愛智出版。

加藤碩一・須田郡司（2008）『日本石紀行』みみずく舎。

加藤碩一・脇田浩二・トーマス・H・ウィルソン（2008）『日本列島—地学の旅— Geological Travel in Japan』愛智出版。

加藤碩一・青木正博（2011）『賢治と鉱物』工作舎。

加藤碩一（2011）『宮澤賢治地学用語辞典』愛智出版。

加藤碩一（2014）『石の俗称辞典第二版』愛智出版。

文献

加藤碩一（1980）5万分の1地質図幅「坂城」及び説明書。地質調査所，57p.

加藤碩一（1981）5万分の1地質図幅「栗島」及び説明書。地質調査所，32p.

加藤碩一・赤羽貞幸（1986）長野地域の地質。地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，120p.

加藤碩一・佐藤岱生（1983）信濃池田地域の地質。地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，93p.

加藤碩一・佐藤岱生・三村弘二・滝沢文教（1989）大町地域の地質。地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，111p.

KATO, H., WAKITA, K. and BANDIBAS, J. C. (2003) Eastern Asia Geological Hazards Map. *Journal of Natural Disaster Science*, 25, 65-74.

加藤碩一・脇田浩二・斎藤 眞・高木哲一・水野清秀・宮崎一博（編）（2022）日本列島地質総覧—地史・地質環境・資源・災害—。朝倉書店，東京，460p.